

雑感：教養教育の社会学

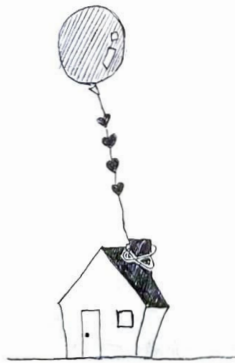
社会科学コース助教授 材木和雄

総合科学部で社会学の授業を担当するようになって10年になります。この間、毎年悪戦苦闘してきたのが、教養教育の社会学をどのように教えるかということです。

一般教養の社会学の構成としては、まず社会学の視点や方法を述べて、現代社会の変化のトレンド（産業化・都市化・情報社会化・少子高齢化）や現代社会の諸領域の問題（家族、学校、企業、都市、農村）を各論的に指摘していくというやり方が普通だと思います。多くの社会学の概論書はそのような構成になっています。私が学生のころの先生は、「教養の社会学は最低限、家族・地域・産業を教えればよい」と述べていました。

私も最初に社会学を教え始めたころにはやはり概論書を読んでその構成に従ったノートをつくり、講義をおこなっていました。しかし、このようなやり方は、現代社会の諸問題と社会学の研究成果を幅広く紹介できるというメリットがありますが、どうしても掘り下げが浅くなり、あとに記憶や印象が残らないというデメリットがあります。そこで総合科学部に赴任してからは少しやり方を変えました。概論的な部分を最小限にして、各論的な問題を集中的にとりあげるというやり方にしました。学生の大半にとって、社会学の授業を聞くのは最初にして最後の機会になるだろうから、何か記憶や印象を残してもらいたいというのがその理由です。

最初に取り上げたのは、「脳死」の問題でした。それが現代社会の社会規範や社会関係



に重大な影響を与えつつある点に興味があったからです。今から思うと冷や汗ものの講義でした。その後は、もう少し自分の得意な分野（産業社会学）に近いほうが無難だろうということで、日本の経営論や日本的集団主義、日本の能力主義、日本の企業社会の問題を取り上げ、日本の組織や集団と仕事のあり方を考えるという組み立てをおこなってきました。しかしこの2年間は、自分の守備範囲をひろげて、「家族社会学」の研究成果の紹介をおこない、まだ試行錯誤を続けています。

私が教養の学生の時代に授業を聞いた社会学の先生は「一度ノートをつくれれば20年間使える」と授業中に豪語していました。しかし、いまは毎年内容を見直さなければならない時代となっています。この10年間どれだけインパクトのある授業をできたかはわかりませんが、社会学の認知度を高めるためにも、教養教育レベルから教育内容を充実させる必要があると考えています。

「現代きもの考」

社会科学部国際社会論専攻(比較文化研究)D3 中尾和恵

日本の民族衣装である「きもの」に関わるようになって早2年。「きもの」に対する良くないイメージも払拭され、ようやく親しみをおぼえるようになった今日この頃である。「きもの」といって、優雅で、美しく、女性らしい大和撫子のイメージがある一方で、窮屈で、着るのが面倒で、高価、というマイナスのイメージもつきまとう。そのためか、日頃「きもの」を着た女性に出会うことは少ないし、出会うても「式」と名の付く行事に参加した人か、そうでなければ、これまた大和撫子のお稽古事に関わる人ぐらいである。しかし、本当のところ、これらのイメージは単なるイメージに過ぎない。

「着物」そのものは（種類にもよるが）、確かに優雅で、美しく、女性らしい。振り袖や訪問着などの「着物」姿は、まるで一枚の絵画を纏っているが如く優雅で、美しい。しかし、女性らしいという点については人それぞれであるはずだ。にもかかわらず、一様に女性らしいと思われるのは、「着物」の構造上着た人が女性らしくならざるを得ないからではないだろうか。布を巻き付け、紐で結びつけられた状態では、必然的に大股で歩くことも、あぐらをかくこともできないし、正座するときも裾を押さえて座らないとごろついて不快になるので、座り方にも気をつけるようになる。「着物」を着た女性の動きが女性らしいのは、ひとえに「着物」の構造ゆえである、と私は経験上思うのである。

「きもの」を着ると大和撫子にならざるを得ないというこの状況は、「きもの」の持つ窮屈をいうマイナスのイメージと残念ながら結びついてしまっている。洋服に慣れ親しんでいる現代人にとって、自由に身動きのとれない「きもの」の構造は確かに窮屈かもしれない。だが、帯のおかげで無理なく姿勢を正

すことが出来るので、体への負担は意外に少ない。その上、帯の結び方によっては寝ころがってテレビを見ることだってできる。そして何よりも、「きもの」の着方(着付け方)が上手であれば、満足に食事をして苦しくならない。「きもの」を着ていても、体の自由は保証されているのだ。また、「きもの」を着るのが面倒だということに関しては、一通りの順序とポイントをつかめば、楽に着ることが出来るので、面倒の一言で片づけられると残念である。もちろん、何をどう着ようと構わないという主義の人にとっては「きもの」を着るプロセスは苦痛かもしれないけれど、このことは洋服を着るときにも当てはまるのではないだろうか。何も「きもの」に限ったことではないだろう。

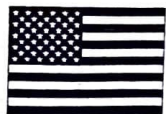
そして、「きもの」は高価だ、というイメージは、ある意味その通りである。袖のように気の遠くなるような行程を経て出来上がる「きもの」や、絢爛豪華に彩色された「きもの」など、いったい誰が買うのだろうか、と思わせてくれる値段の「きもの」が確かに存在する。しかし、それも当然のことである。素材が絹で



ある上に、多くの人の手作業によって「きもの」は出来上がっているからである。この点は仕方無いと思わざるを得ない。だが、ありがたいことに安価な「きもの」を手に入れようと思えば十分可能である。化繊の着物はスーツよりも安い。質流れ品処分市やリサイクルショップを上手に利用すれば、着物も安く手に入れることができる。手に届かない存在でないことは確かなのだ。

以上のことからお解りになるかも知れないが、私は「きもの」に親しみを持ってはいるのだが、大和撫子ではない。しかし、そんな私でも着れば大和撫子だ。「きもの」とは、いと便利なものである。

デカイ街での小さなトラブル



《後編》

教務係 甲田政道



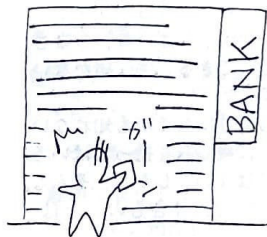
次の朝、財布には現金がほとんど残っていなかった。ルームメイトの彼によると空港まではタクシーしかないが、タクシーではトラベラーズチェックは使えないらしい。朝食を買うついでに現金に両替しようと近くのハンバーガー屋に行った。ハンバーガー2個にコーラで2ドル25セントという異様な安さだった。私は、店員に50ドルのT/Cを見せ了解を取った後でサインをし、渡した。店員がそれに私のパスポート・ナンバーと日付、店名をサインした。ところがじつとそれを見つめた店員は私に待つように言って奥へ消えていった。

戻ってくると、このT/CはVISAだから受け取れないと言いつつ出した。さっきOKと言ったじゃないかと言うと、うちはアメックスしか扱ってないからと言う。では、なぜはじめにそう言わなかったのか、OKと言ったからサインをした、自分もサインしたじゃないかそれを受け取らないのはおかしい、とつたない英語で抗議した。しかし店員はノー、ノーの一点張り。昼にはアメリカを発たなければならないから急いでいる、早くおつりを渡してくれと何度も言った。やがて奥からマネージャーらしき男が出てきて、それを持ってそれを買った銀行へ行けば換金してくれるなどと無責任な事を言う。私の後ろにはすでに二、三人待っていて、黒人のおばさんが早くしろどかなんとかギャーギャーわめいている。しかし、店のサインがしてあるT/Cで払い戻しをもらえる保証はどこにもない。ここで引き下がるわけにはいかない。私は聞き直して店員に、サインをしたのはお前なんだから、お前が銀行に行行って換金すればいいと反論した。するとマネージャーと店員はハンバーガー代はいらぬから、それを持って早く日本へ帰れとまで言い出した。全く信じられない話だ。これ以上言い合っていてもらちがあかない。はじめに泊まったモーターの近くに銀行があったのを思い出したので、そこまで走った。しかし、土曜日で銀行は閉まっていた。それならと前にT/Cが使えた土産物店へ行き事情を話した。

T/Cを見た店員のおねえちゃんはいぶかしげにパスポートを見せろと言う。それを見比べて、サイン（漢字で書いてある）が違うみたいだからダメだとT/Cを突き返した。「おまえ漢字が分かるんか」と日本語でつっこみを入れ、しかたなくモーターへ戻った。

部屋で待っていたルームメイトの彼に事の次第を話した。彼は同情はしてくれたがいい案は出なかった。先を急いでいるような様子だったので部屋代だけもらい別れた。

気を取り直してLAのVISAへ電話した。パンフにある「日本人スタッフによるスムーズなトラブル対応」とはほど遠い似非日本



人スタッフが「口座に振り込むことはできるが再発行はできない。」と訳の分からない説明をする。もう一度ハンバーガー屋へ行き、かなりねばったがダメだった。もう時間がないのでしかたなくモーターへ戻った。

フロントのおばさんにシャトルバスを呼ぶよう頼んだ後、いや実はさっき・・・と例のT/Cを見せ帳末を話すと、にっこり笑い「分かった。じゃここにサインして」とハンバーガー屋のサインを2本線で消した。私が半信半疑でサインすると50ドルくれた。渡りに船とはこのことだろう。何度も何度もお礼を言った。日本に帰ったら“SUNSET405MOTEL”の宣伝をすると約束した。おまけに、おばさんが呼んでくれた空港までのシャトルバス代はたった10ドルだった。行きはチップ込みで30ドルも払ったのに・・・あの運転手・・・。

異国の地での異常に不愉快な出来事と思いがけない親切に触れた後、ロサンゼルス国際空港に着いた私は、ともあれ帰路に就くことができた感慨に浸っていた。

しかし、トラブルは続いた。

チェックインをしようとしたところ、なんとパスポートがない。財布をしょっつちゅうなくすおっちょこちょいの息子のために母親が作ってくれた袋に入れて首からぶら下げていたはずなのに。最後に見たのはあのハンバーガー屋でだ。デバックの中をひっくり返してみたがない。もうアメリカで開くことはないとぎちぎちに詰め、預けかけていたスーツケースを開けた。あった。受付のお姉さんに笑われた。

売店で小銭を整理し、さあ出国という時、又青ざめた。出入国カードをスーツケースに入れたまま預けたのに気づいた。あわててアジアナのカウンターへ行きスーツケースを戻してくれと頼んだ。約20分後、もうすでに飛行機の中に運ばれていたスーツケースが戻ってきた。受付のお姉さんに笑顔はない。人差し指でバツ印をして「SHAME, SHAME, SHAME」そういえばRATTの曲にあったな、などと悠長なことを考えながら、穴があったら入りたかった。

出国手続きも終え、あとは免税品を受け取って飛行機に乗るだけ・・・待てよ、引換券は？！スーツケースの中だ。朝からのゴタゴタで免税品受け取りのことまで頭が回っていなかった。それにしても一人でよかった、これが誰かさん(?)と一緒にいたら何こそ言われるか分かったもんじゃない、などとまたまた悠長なことを考えてみたがもうどうすることもできない。免税品をもってきたDFSの人に引換券がない旨を言うと、パスポートでOKだと言ってくれた。あーよかった。

ボーイング747に乗り込み席に着くとアジア人が「アーユーチャイニーズ？」と聞いてくる。「ノー」と答えると去っ



で行った。やっぱり大陸系の顔なんだろうか。
 幸運にも隣の席が空いていたのでリラックスできた。予定を20分ほど遅れ、無事(?)アメリカを出発。行きとは違いく眠れた。

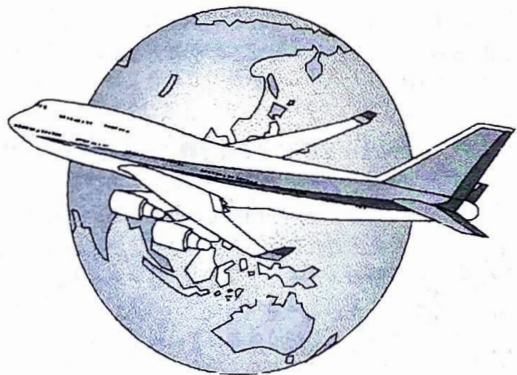
ソウルで広島への乗り継ぎが無いので一泊するの必要があった。ここだけは事前に予約していたホテルに直行。素泊まり1万7千円の高級ホテルだ。客は気取ったスーツ姿のビジネスマンばかり。最後だから豪勢にディナーでも食べればいいのだが、疲れがどっと出たのかすぐ寝てしまった。考えてみるとLAにいる間中ずっと緊張していた気がする。

翌朝、空港では関西国際空港との就航記念式典が行われていた。

11日ぶりに家に帰り、予想に反していつも通りに振る舞う妻と娘の顔を見てなぜか妙に感動して目頭が熱くなった。行く前、内心では5割くらいの確率でまともには帰れないと思っていた。今ではもう何処へでも行ける。そんな気がした。

この旅行の間に、それまで私のことをあだ名で呼んでいた娘が「おとうさん」と言うようになったのはよそよそしくてちょっと悲しい。
 こうして30歳にして海外にハマってしまった私は2年後の去年はオーストラリアへ、そして来年は中国へ行く予定だ。これから大蔵大臣の顔色を伺いながらの隔年海外旅行は続く。

《おしまい》



新任教官紹介

新任教官紹介

平手 友彦 (外国語コース 助教授)



名古屋の下町生まれ下町育ちですが、流暢な名古屋弁は期待できません。学部、修士、博士と異なる教育機関を渡り歩いていた時に置いてきてしまったのかもしれませんが。専門はフランス16世紀の物語作者フランソワ・ラブレールのテキストを機械で「料理」する事ですが、最近ちょっと浮気をして、『デカメロン』の仏訳と出版の問題を調べています。トリノの大粒石工場でバイトをしていた時にイタリア熱の洗礼を受け、それ以来研究と趣味がどうもイタリアに向かいがちです。(ああ、愛すべきイタリア)そういう次第で、趣味の映画、音楽、美術もイタリア中心で回っていますが、さすがに読書はそういうわけにはいかず、マチネポエティックの福水、中村、加藤あたりの本を集めて読みます。高校野球というヤクザなことをしていたせいか、体を動かすことにもさほど抵抗はなく、水泳、テニス、スキーもしますが、しかし、何と言っても飽きないのは古書店のカatalog(特にフランスの)で、きっと目の前にある限り読み続けるでしょう。

盧 濤 (外国語コース 助教授)



貧しい時代に中国の東北部に生まれ育ち、その大学で日本語を4年間習い、5年間教えていた。1987年来日し、関西の大学で、中国語学を3年半、言語学を5年間学んだ。その後南九州の大学で中国語を2年半教え、98年10月から広大に赴任してきた。
 皆と同じように、音楽も旅行も好きだが、カラオケは「しぶい」との評判。ホンコン、マカオ、ソウル、シンガポールのほか、日本では、北海道、南東北、関東、信州、北陸、関西、中国、九州、沖縄での旅の経験をもって、日本地理を教えられるかもと自負(?)している。たまにはコラムのような物を書いたりして、ストレス解消に努める。散歩が唯一の運動形式であり、妻と息子がついてくれるが、最近中学生になった娘が同行しないのが辛い。

学問的専門たるものはないが、日本語、中国語、言語一般の問題に関心がある。普段、「靴下」の「下」は何なのか、「頭に来る」は何が来るのか、とかというようなことを考えたりする。言葉のことについて、皆さんと談話できたらと思い、楽しみにしている。

清水 真木 (地域文化コース 講師)



1968年東京生まれ。91年東京大学文学部西洋古典学科卒業、93年同哲学科卒業。95年東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻修士課程修了。95-98年日本学術振興会特別研究員(DC1)。98年東京大学大学院人文社会系研究科哲学専門分野博士課程修了。博士(文学)。駒沢大学文学部非常勤講師を経て、昨年10月から現職。専攻:哲学、哲学史。著書「岐路に立つニーチェー二つのベシミズムの間で」(1999年3月、法政大学出版局)。

L · I · S · T · E · N !



「どうしてそんなに寂しそうな？」
 「それは、君が飛翔にいないからさ」
 「大変そうね。」
 「いや、君がいるだけで十分さ。」

by 総科一のナルシスト

部下：た、隊長！

隊長：どうした？

部下：我が部隊は攻撃を受け、人員が不足しております。このままでは壊滅してしまう恐れがあります。

隊長：何、それはまことか！

部下：はい！隊長、いかが致しましょう？

隊長：ううむ、ならば致し方ない。どこかにいい人材は・・・お、そこで眺めている君！そう、君だ！どうだ、我が部隊「飛翔編集委員」学生隊に入らぬか！さあ・・・

・・・ということで、我らが飛翔編集部は元気でやる気があってユーモアのセンス(ここが重要)がある人を渴望しています。イラストが描きただけ、暇ですることがない、その他何でも構いません。とりあえず編集室に来てみて下さい！きっとあなたが求めていたものに出逢える・・・かも。

故 森利一先生を悼む



社会科学コース 小池 聖一

昨年11月10日、森利一先生が永眠されました。享年61歳。先生は、最後の最後まで授業に出ることを望まれ、47キロの体重が30キロ弱となり、自らの身体をささえるのがやっとという状況のなかでも教壇に立たれました。先生の戦場は、最後まで病室ではなく、教室でした。小さな身体に似合わず、先生は、演習でよく大きな声を出され学生を叱咤激励されていました。覚悟していたとはいえ、今、その声が私の研究室に届かないのが寂しく、そして悲しく思われます。

先生と最後に会話を交わしたのは、亡くなる前の土曜日の夜8時頃に電話でのことでした。先生は、「ついに授業にいけなくなったよ」と話されていました。先生は、病名を告知されることなく、最後の刻を迎えられたのですが、その時の声は、どこかで全てを悟られているかのようでもありました。そして、10日、眠るように亡くなられたのです。病名は、膵臓癌でしたが、苦しめなかったことがせめてもの慰みでした。とはいえ、事実を知りながら、先生に悟られまいとされていたご家族のご苦勞を思うと、そのお苦しみとお悲しみに誠実であったか、自分に反問する日々でもあります。

先生は、国際政治を専門とされ、とくに外務省の在外調査員として現地において国際政治の実態を身を持って感じられた貴重な研究者でした。そして、琉球大学等をへて広島大

学に赴任されてからは、平和学も志され、最近では、戦前日本の戦争に対する知の根源をたどる営みとして仏教と戦争との関係（「開戦経」）を研究されていました。

先生のお人柄は、まず、豪放磊落なところにありました。研究者として大学院から直接大学に赴任するのではなく、現実社会での体験を踏まえられつつも、どこか世間離れたところがある。まじめで狭い領域の（ときとして時代遅れの）研究に没頭するタイプの社会学者が多くなるなか、現実との対話を重視する研究者であったと思います。また、反面、先生は、実は神経の細やかな方でした。先生は、赴任したての私の身辺をそれとなく見守ってくださり、授業のしかた等をご助言してくださいました。

先生の残されたゼミの学生達は、先生の意志をついでいています。私もその一端にづらなるものと思っております。先生、安らかに眠りください。

故 菊池邦雄先生のご逝去を悼む



生体行動科学コース 新畑茂充

広島大学総合科学部教授・菊池邦雄先生は、平成10年11月20日12時07分、後腹膜腺肉腫のため逝去されました。享年62歳でした。まことに痛恨の極みとしか申せません。

先生は、昭和45年4月からこの広島大学に就任し、誠実・高潔な人格と卓越した意見、該博な学識を持って、教養教育と専門教育の充実に尽力されました。また、大学院生物圏科学研究科ならびに大学院学校教育研究科では若手研究者の指導にあたり、多数の優秀な人材を育成されました。先生は同僚、学生の信頼と敬慕を一身に集め、指導を受けた者の多くは、現在、我が国の学界ならびに教育界において、指導的な立場で活躍しております。

先生は、主にスポーツ活動と骨格筋に関する研究を推進されました。また、一貫して青少年および中高年の健康づくり、体力づくりに関する研究や保健衛生、環境整備に関する研究を継続し、優れた業績をあげるとともに、学術の進展にも大いに寄与されました。近年では健康、体力づくりのみでなく、競技選手のパフォーマンスの向上に関する研究および身体障害者の健康、体力の維持増進やスポーツ活動への積極的な参加に関する研究を推進して大きな成果を取られました。

先生は、昭和46年4月から同47年4月まで、同55年4月から同57年3月まで、および、平成7年から同9年3月まで広島大学保健管理センター運営委員会委員、昭和49年3月から同51年5月まで広島大学総合移転・改革に関する基本計画委員会研究・教育体制専門委員会委員、同60年2月から同63年1月まで3期

にわたり広島大学エクステンション事業委員会委員、同63年4月から平成元年3月まで広島大学学生生活委員会委員、同元年1月から同3年1月まで広島大学学生懲罰委員会委員、同5年4月から同7年3月まで広島大学国際交流委員会学生交流専門委員会委員などを歴任し、大学の管理・運営に尽力されました。

また先生は、日本体育学会、日本体力医学会ならびに日本生理学会などの評議員を努め、さらに日本運動生理学会では理事、広島体育学会では理事長の役職を歴任し、広く学界活動に関与しその発展に努められました。また、広島県体育協会常務理事等（スポーツ医科学委員会委員長）を長年務められたほか、広島県教育委員会の指導助言者、広島市スポーツ事業団理事、久保スポーツ財団評議員、ひろしま生涯研究所副代表理事、広島社会福祉協議会の高齢者の健康づくり指導者として、優れた才能と識見を持って誠実にその任務を遂行するなど、青少年のスポーツ教育ならびに中高年の健康教育に多大な貢献をされました。その結果、平成2年10月に広島市から、広島市保健衛生事業功労者賞を授与されました。

以上のように、先生は、長年にわたって教育と研究に従事し、健康科学ならびにスポーツ科学の研究において優れた業績をあげるとともに多数の優秀な人材を育成するなど、学界ならびに教育界の発展に寄与された功績は誠に顕著であります。

ここに謹んで先生のご逝去を悼み、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

本のお話



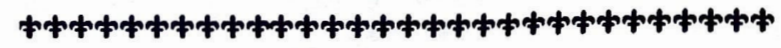
きつと誰しもが、自分の人生の転機があったと思う。それは、出会いであったり別れであったりする。そこで、今回は「自分の人生に大きく影響を与えた本」について書いてもらいました。本が、あなたの人生のスパイスとなるように・・・

武部 泰明 (地域文化コース 09)



自分の人生に大きく影響を与えた本は、数多くあるが、その中でも、最も影響を与えた本を今回、紹介しようと思う。本といっても、漫画であるのが自分らしいといえるが、「MASTER KEATON」(浦沢 直樹・画 勝鹿 北星・作)である。この漫画は、様々な経歴を持つ「キートン・ヒラガ・タイチ」が巻き起こす、いろんな物語である。この物語は、彼の持つ考古学的な知識やサバイバルの能力、人間関係、そして、政治的、社会的などを背景として、ダイナミックに進んでいく。そのため、いつの間にか自分はその中へと引き込まれていった。

その中でも、自分がひかれていったものは、その考古学的な事実や、その中に描かれている民族学的なものである。自分にとっては、そこには、人間の本質のようなものがあるように感じられたのだ。どういう経路をたどって、そう思ったかについては、話が長くなっ



このコーナーでは、本とあなたにまつわるエピソードをお待ちしています。学生、教官、その他学外何も問いません。どうぞ飛翔編集室まで持ってきて下さい。

てしまうので、この際省略させてもらうが、その中でも、神話や宗教に関わってくるものに興味を持ち始めたのだ。そして、その趣旨に沿った学問を調べていくうちに自分がこれからしていこうとしている文化人類学に出会い、そのまま、大学選びの基準となったことはいうまでもない。

また、「MASTER KEATON」では、その他にも何かと色々と触れているので、雑学になっていいのではないだろうかと思う。さらに、タイチの発揮するサバイバルのシーンや、様々な事件を解いていく場面はなかなかハラハラして、おもしろいものとなっている。

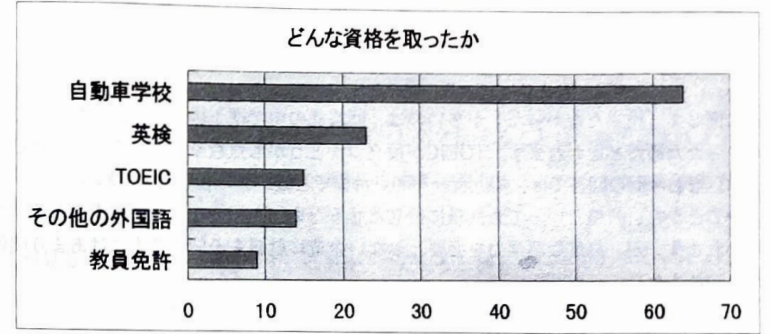
結構、有名な漫画であるため、もうすでに知っている人もいることだろう。そんな人はいいとして、知らない人にはぜひ読んでほしいと思う漫画である。

資格取得に関するアンケート

今回、「飛翔」では、総科生の資格取得状況を調べるため、98年11月頃、各コースの4年生を対象にアンケート調査を行いました。なお、今回は公務員試験を資格として扱いませんでした。140人に調査した結果、102人から回答を得ました。ご協力ありがとうございました。また、諸事情により、比較的文系コースの回収率が悪かったことをお詫びします。ご了承下さい。

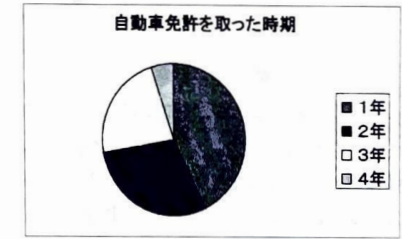
§ どのような資格を取ったのか? §

多くの取得資格のうち、人数の多いものを取り上げてグラフにしてみました。なお、「英語以外の外国語」には、フランス語検定、ドイツ語検定、中国語検定、HSK (漢語水平考試)、TECC (中国語コミュニケーション能力検定試験) が含まれています。



グラフを見ると、自動車免許の取得率がとても高いことがわかります。また、外国語の中では、やはり英語の資格を目指す人が多いようです。理由としては、「実力を試すため」「就職に役立てるため」等が挙げられていました。教員免許取得者は文系コースに多く見られました。また、語学検定関連の人数が思ったより少なかったのは外国語コースのアンケートの回収率が悪かったことが影響しているものと思われます。

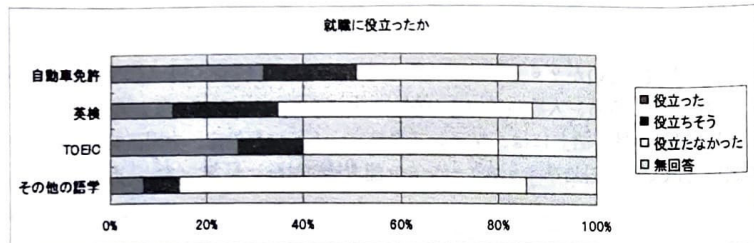
§ 自動車免許を取った時期 §



自動車免許を取った時期は、「1年生の夏」という回答が多数を占めました。免許を取得した理由については、「必要性を感じたから」「車に乗りたいから」「欲しかったから」「後々のため」「暇だったから」「通学のため」などが挙げられています。全体的に、自動車免許は暇のあるうちに取っておこうという風潮があるようです。

§ 就職と資格 §

では、取得した資格は就職にどのように影響しているのでしょうか。先に挙げた主要項目(教員免許を除く)について「役立った」「役立ちそう」「役立たなかった」「無回答」に分けてグラフにしました。なお、企業・職種によっては最初から関連性がないものもあるため「役立たなかった」といっても一概に就職全般に役立たないと言うことはできないでしょう。



英検に関して「役立たなかった」が多いのは、回答者の中で準1級以上取得したと答えた人が少なかったためだと思います。TOEICが役立つかどうかは点数や職種によって異なると思われます。なお今回の回答では、600点台~800点台までと幅がありました。「役立った」が意外に少ないことから、資格といっても就職に役立たせるためには相当な程度が要求されるのだろうと思われます。が、高度な語学力を必要としない企業に就職を希望する人にはあまり関係ないのかも知れません。

§ その他の取得資格 §

漢字検定 TOEFL 秘書技能検定 硬筆二段 システムアドミニストレーター(情報処理技術者試験)
INPA(インターネットプロフェッショナルアドバイザー) 少林寺拳法二段
自動二輪 空手二段、三段 そろばん二級 弓道一級、二級 第二種情報処理
技術者試験 危険物取扱乙4種 暗算5段 映写技術認定証
ペン字検定二級

§ 取っておけばよかったと思う資格 §

英検 教員免許 自動車免許 TOEIC TOEFL 調理師免許 他多数

この記事を読んで「資格取得は就職に有利でない」と早合点しないで下さい。今回のアンケートは比較的小規模で質問自体にも不備な点があったので、必ずしも現状を正しく表したものではありません。ですが、大まかな傾向はつかめるとと思いますので今後の参考にして下さい。

読者からの声

読者からの声

藤井 啓品 (人間文化コース 08)

『飛翔』が学部内の「情報誌」なのか、外部に向けて総科を紹介する「広報誌」なのかというのは微妙なところでしょう。読者が両者にまたがっているのが、二兎を追わなくてはならなくなり大変だと思えます。それぞれによって主とするテーマが変わってしましますから。

どちらにしても大きな役割を果たしているのは「研究室紹介」ではないでしょうか。学部生が研究を進めていく上で参考とし、総科がどのようなことをするところなのかを学部外の人が見ることができるからです。これが定番の記事として続いているのは非常にいいことだと思うのですが、残念に思うこともあります。それは、紹介というにはあまりにも記事の内容が簡単すぎるということです。教官の専門とする分野や、いかに学際性を追求しているのか、研究室の雰囲気、学生へのメッセージなど伝えるべきことは数多くあると思います。それらを十分にインタビューした

上でうまく要点をまとめて伝えてもらえればありがたいです。しかし現状は、多くの余白と簡単な紹介で終わっていませんか。ビジュアル面を工夫し、文章を簡潔にすると読みやすくなるというのは確かに一理あると思います。しかし、そのために内容が乏しくなってしまうのは元も子もないのではないのでしょうか。内容を損なうことなく多くの情報をまとめて伝えることは困難ではありますが、やすきに流れることなくもう少しの努力を期待したいと思います。号を重ねるごとに進化していると信じていますので、よりよいものができればと思い、あえて苦言を呈させていただきました。

最後に、毎号毎号何をテーマとするかに頭を悩ませ、人材不足の中で難しいテーマに取り組んでいるのを見ると、いつも頭の下がる思いです。これからも一読者として温かく見守っていききたいと思います。

率直な意見を有り難うございます。研究室紹介は人気コーナーでもあるので、これからもっと力を入れていきたいと思っています。またリクエストがありましたら、どうぞ御一報下さい。



編集後記

ただでさえ修繕場なこの時期に、更に編集委員を悩ませる編集後記。半年間飛翔に身を投げ尽くした編集委員たちの心の叫びのページです。

前田 和寛 (生体行動科学コース 2年 問題児)

もうすぐ春になる。これが発行される頃にはきっと桜が咲いているだろう。雪も解けてきたというのに、何でこんなに残れているんだろう。何かが間違っている。金はないし、仕事は多いし、腰が痛い・・・そう、腰痛なんです。長時間椅子に座れないんです。そんな中、学生編集委員長として、この半年やってきました。私が不甲斐ないばかりに、編集委員・教官・事務の方々その他多くの皆様に多大なご迷惑をおかけいたしました。この場を借りてお詫びと感謝の意を表したいと思います。本当に、有り難うございます。

このページを読んでくれた皆様へ
どんなことがあっても希望を捨てないで下さい。人生に何があっても、生きているうちは何が起るか分からないのだから・・・僕はこの仕事で身にしみました。

吸えぬなら さがすまでよと 冬空の
下で彷徨う 一匹狼

飯寺 純子 (地域文化コース 2年)

頼りない司会者と進まぬ議論にも耐えて、一緒に特集を作り上げて下さった皆様。インタビューに快く応じて下さったキャサリン様とNちゃん。公私ともに心の支えであった松子嬢。忙しいにも関わらず、拙い私たちの進行状況を見守って下さった某OB氏。以上の方々にかからの感謝を込めて。

追伸・・・レイアウトも大方済んでホッとしてたらフロッピー無くなり全部パー、テスト中なのにコンピュータとにらめっこして打ち直し、悲惨悲惨ああ無情、どこに行ったフロッピー戻ってこいフロッピーまあ今更戻ってきてもどうしようもないんだけど納得行かないんだ頼むから君の居場所だけでも教えておくれやっホー!!!



田村 久 (外国語コース 2年)

初めてまともな時間に編集後記を書くような気がする。毎号のように廃刊の危機、発行の危機に瀕している飛翔がよくもまあ2年間で4冊も発行できたと思う。歴代の学生編集長には本当に頭が下がる。飛翔は学生が自主的にやっているものだという話を聞くことがある。だが実際は学生、教官、事務官の3者で作って行くものである。そのことが最近忘れられているような気がしてならない。少なくとも編集長となる教官の方にはそのことを正しく理解し、プライドを持って編集作業をしてもらいたいものだ。長々と書いたがこのことが私の飛翔を去る上で書き残したいことである。さようなら飛翔。また会う日まで。

永山 啓一 (自然環境研究コース 2年)

今回は何かと忙しかったように思います。でも、軽く、欲求不満です。

原田 晶子 (物質生命科学コース 2年)

書くのが遅かった上に、うまくできなくてごめんない。でも、とてもいい経験になりました。

古川 由香里 (地域文化コース 2年)

大した仕事もせずに、足を引っ張ってばかりの一年でした。迷惑かけてばかりですみません。

松田理恵子 (外国語コース 2年)

仕事を言われてやるのは仕事を見つけて人に言うよりずっと楽だと思った。

森岡 ナナ & 石川友実子 (社会科学コース 2年)

飛翔では非常に笑わせていただきました。個性豊かな人々に囲まれて、私は幸せ者です。PS.のぶちゃんラーメン食べに来てください。石川さんとともにお待ちしております。(森岡)

同上。おかげさまで充実した半年でした。楽しかったな、うん。(石川)

有田 夏子 (1年)

今回、いろいろ自分では苦労したわりに、あまりお役に立てませんでした。が、(勝手にすけれども)、いろいろ勉強になることもありました。

さて私は誰でしょう。(1年)

1年生だけで特集を組むのは大変でした。飛翔を去ってゆくお二人さんにはお世話になりました。さようなら、生きた化石たちよ。

——上のやつは次期編集長をするらしい・・・
(編集応援団長かいち)

——ほんまにやるんかいな。(居候ムサビよん)
それは次回のお楽しみ! (竹田 慶)

近澤 康平 (1年)

あまり役に立ちませんでした。自転車の鍵を紛失しました。

藤波 嘉信 (1年)

しおしおのバー。ただ楽しかったからいいか。じゃ、お先に!!

けんにイーの駄文日記 号外

～飛翔編集後記編～

総科の皆様へ 私、前田健太郎は「けんにイー」と呼ばれていますが、「けんにイー」の「にイー」は平仮名の「に」に、片仮名の小っちゃい「イー」です。「けんにい」や「けんにい」は出来る限り避けて下さい。お願いね♥

地域文化コース志望

前田 健太郎 (1年)

松田 敏英 (1年)

つらいこともありましたが、たのしいこともありましたが、あつというまにいちねんすぎて すてきな仲間になりました

吉田 昭子 (1年)

おもしろかった、たのしかった、よくわかった。でもふゆはさむかった。あたらしいへんしゅういんだいぼしゅう!!!みんなであらおう! しょう☆



編集委員

教官:秋葉 節夫 (編集長, 社会科学コース 教授)

中山 裕道 (数理情報科学コース 助教授)

井口 容子 (外国語コース 助教授)

事務:玉田 寛 (学生係)

学生:2年

前田 和寛 (生体行動科学コース)

青松 伴晃 (人間文化コース)

飯寺 純子 (地域文化コース)

石川友実子 (社会科学コース)

伊藤美知子 (社会科学コース)

田村 久 (外国語コース)

永山 啓一 (自然環境研究コース)

古川 恵里 (数理情報科学コース)

古川由香里 (地域文化コース)

松田理恵子 (外国語コース)

森岡 ナナ (社会科学コース)

:1年

有田 夏子

巽谷 彩代

竹田 慶

田中 真弓

近澤 康平

藤波 嘉信

前田健太郎

松田 敏英

三浦和歌子

吉田 昭子

:助っ人

石橋 淳也 (生体行動科学コース 3年)

松永 孝治 (自然環境研究コース 3年)

武部 泰明 (地域文化コース 2年)

原田 晶子 (物質生命科学コース 2年)

:機材運搬・配線及び音楽担当(?)

照屋 敦 (人間文化コース 5年)



飛翔伝言板



卒業生の方へのお知らせ

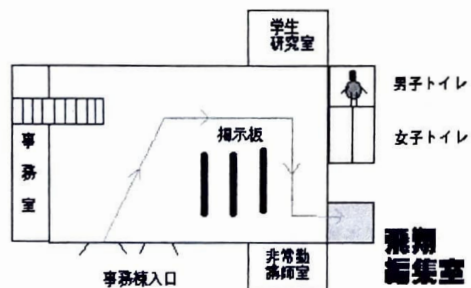
広島大学総合科学部報「飛翔」は、卒業2年目以降の方に対しては希望者のみへの送付となっています。引き続き郵送を希望される方は、下記の住所宛にハガキでご連絡下さい。

〒739-8521 東広島市鏡山1-7-1 広島大学総合科学部飛翔編集委員会

皆様にお知らせ

編集委員大募集! 飛翔では編集委員及び原稿を随時募集しています。

飛翔編集室は事務棟の奥にあります。興味のある人は年齢を問わず大歓迎します。飛翔に関する意見質問は、直接編集室までお願いします。



— Still waters run deep.